

がん登録件数

以下のグラフは、2014年1月から12月までに、入院・外来を問わず当センターで「がん」と診断または治療、経過観察されたがん登録件数の内訳です。

次の腫瘍を、原発部位*をもとに1腫瘍につき1登録します。

- ①固形悪性腫瘍（胃がん、乳がんなど）
- ②造血系悪性腫瘍（白血病、悪性リンパ腫など）
- ③上皮内悪性腫瘍（臓器表面を覆う上皮にとどまるがんで、転移がないもの。子宮頸部上皮内がんなど）
- ④脳腫瘍**（悪性・良性・性状不詳***含む）

*原発部位での登録となるため、転移性腫瘍の治療を行った場合でも原発部位に含まれます。

例) 大腸がん肝転移→大腸がんで登録

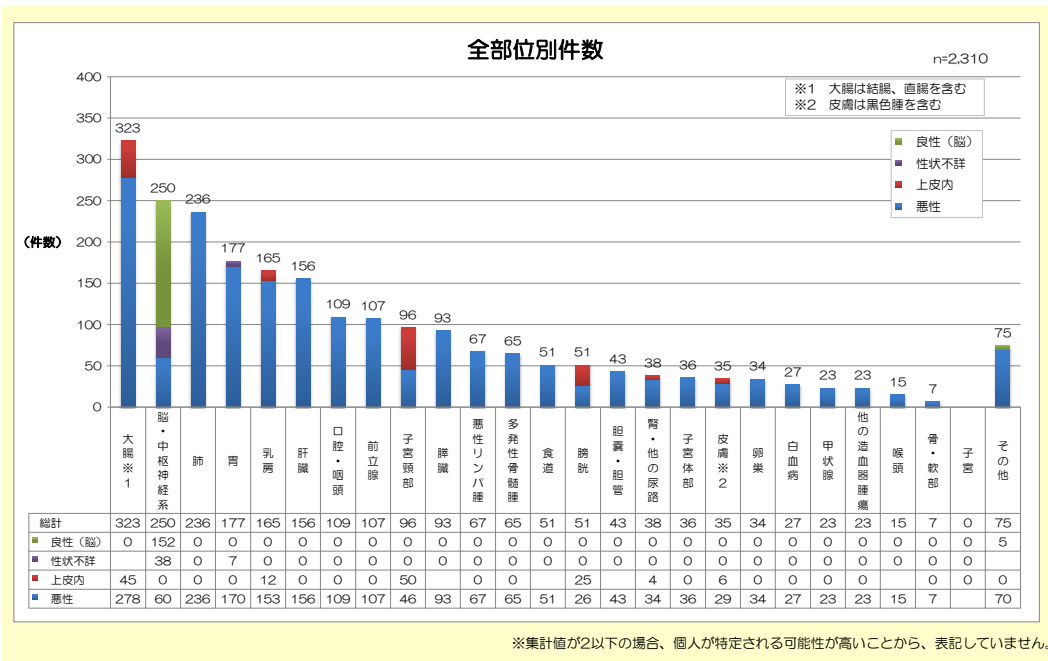
乳がん脳転移→乳がんで登録

**脳腫瘍は良性、性状不詳であっても全身に影響を及ぼすことがあるため、登録対象となります。

***性状不詳とは、国際疾病分類腫瘍学第3版に定められた「良性又は悪性の別不詳、境界悪性、低悪性度、悪性の存在性不詳」を指します。

部位別

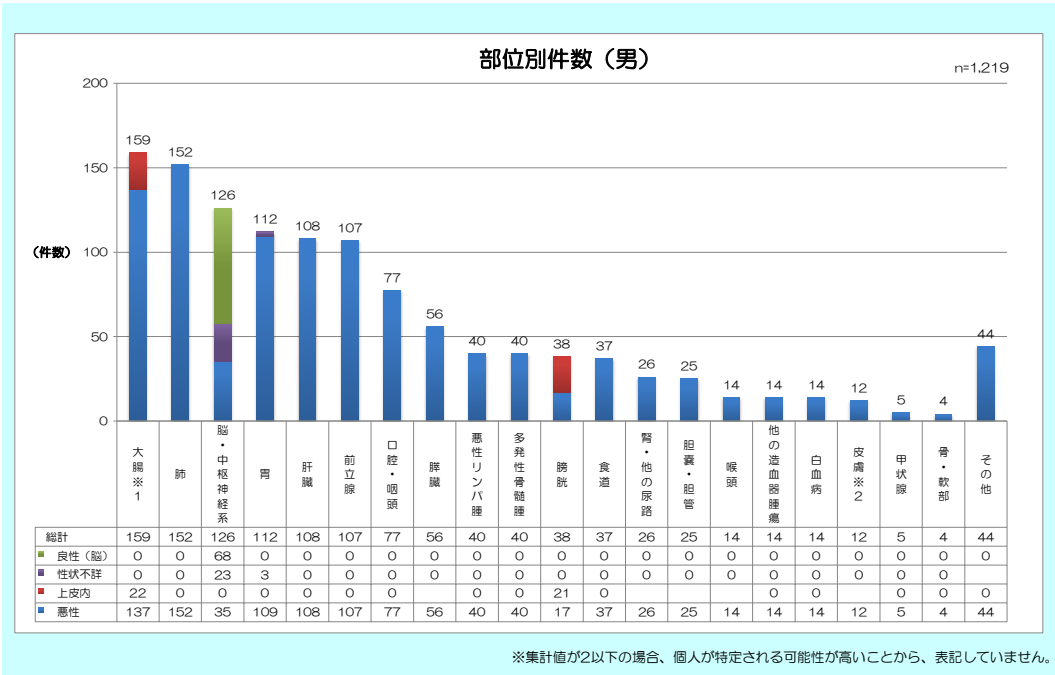
当センターのがん登録件数を部位別に示したものです。



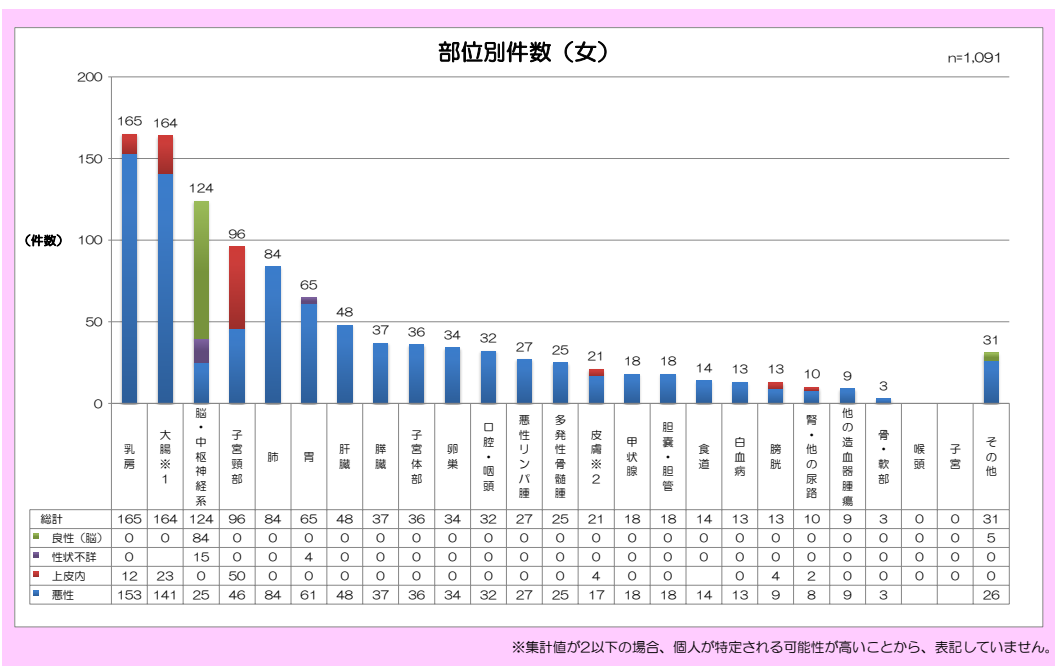
当センターでは日本人に多い5大がん（胃・大腸・肝臓・肺・乳）の登録割合が全体の45%を占めています。そのうち、大腸がん（直腸・結腸を含む）の登録件数が一番多く、上皮内がん（いわゆる早期がん）の割合が13%です。また他の4大がんをおさえ、脳・中枢神経系腫瘍の登録件数が二番目に多く、内訳は良性（良性髄膜腫、下垂体腺腫など）が61%、悪性（悪性髄膜腫、膠芽腫など）が24%、性状不詳（異型髄膜腫、頭蓋咽頭腫など）が15%です。その他には原発不明がん、副鼻腔がん、鼻腔及び中耳のがん、小腸がんなどが含まれます。

部位別・男女別

部位別のがん登録件数を、男女別に示したものです。



男性は、5大がんのうち乳がんを除く大腸がん・肺がん・胃がん・肝臓がんが上位を占めています。



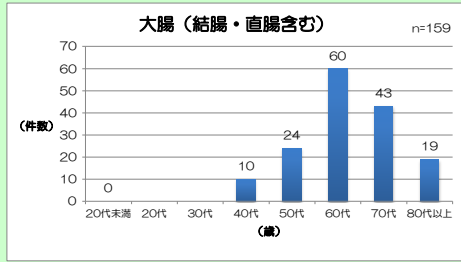
女性は乳がん・子宮頸がんなど女性特有のがんが上位に入っています。

上位5部位別・男女別・年齢別

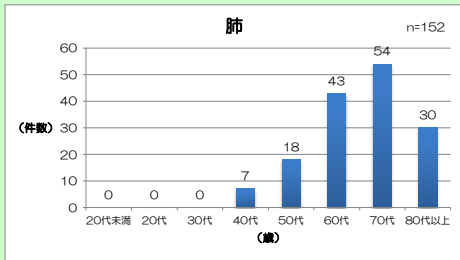
男女別登録件数の上位5部位について、年齢別に示したものです。

(男)

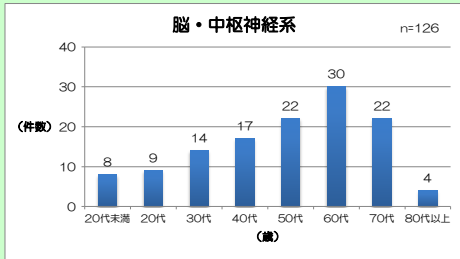
1.



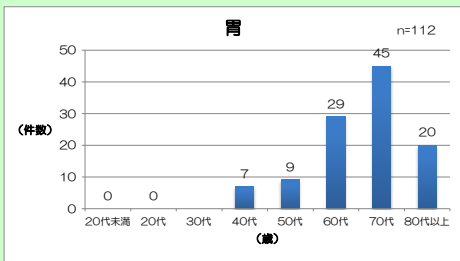
2.



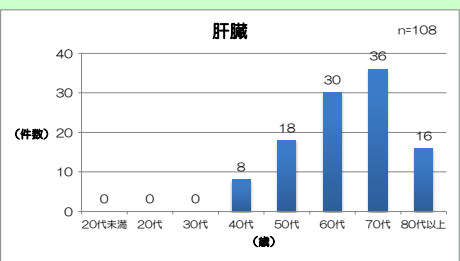
3.



4.

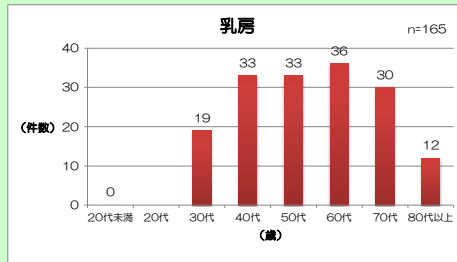


5.

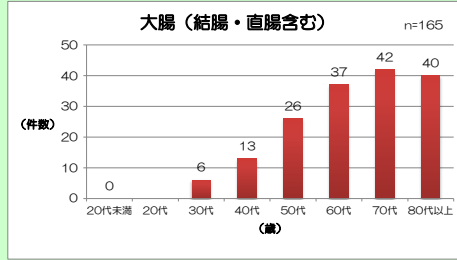


(女)

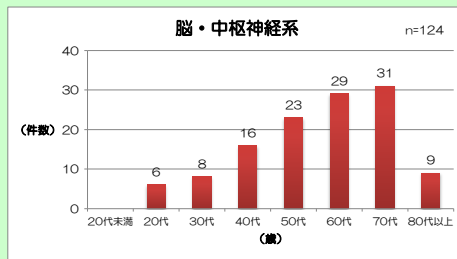
1.



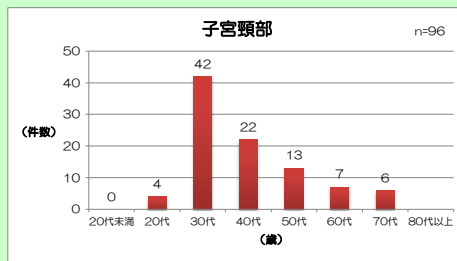
2.



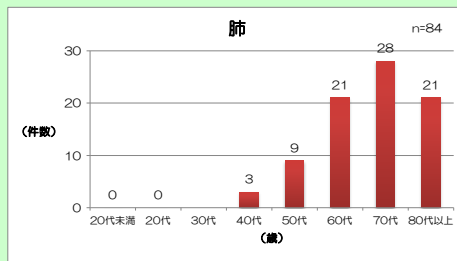
3.



4.



5.



※集計値が2以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、グラフに表記していません。

男性は60代～70代に罹患が多い傾向です。
 女性は乳がんが40代から罹患数が増加しています。子宮頸がんは30代に多く、40代以降は減少しています。

住所地別来院割合

当センターへの住所地別の来院割合を、治療開始前*と治療開始後（治療開始後の継続治療目的）**に分けて示したものです。

* 治療開始前…他施設や当センターで初めてがんと診断され、当センターで治療や経過観察を行うこと。

**治療開始後…他院でがんの治療を行った後に、当センターで新たな治療（追加治療）やこれまでの継続治療、経過観察を行うこと。

（治療開始前の例）

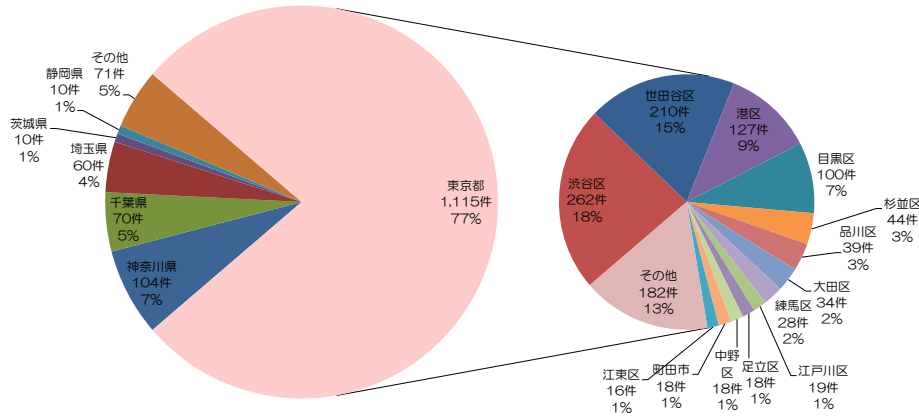
- ・他施設にて「乳がん」と診断され、当センターを紹介受診。当センターにて乳がんの手術と放射線療法を行った。
- ・当センターにて「肺がん」と診断、化学療法を行った。

（治療開始後の例）

- ・他施設にて「胃がん」と診断され、手術を行った。胃がんの術後化学療法を当センターにて行った。
- ・他施設にて「大腸がん」と診断され手術を行ったが、その後「大腸がん肝転移」と診断。肝転移に対する治療目的で当センターを受診し、肝切除手術を行った。

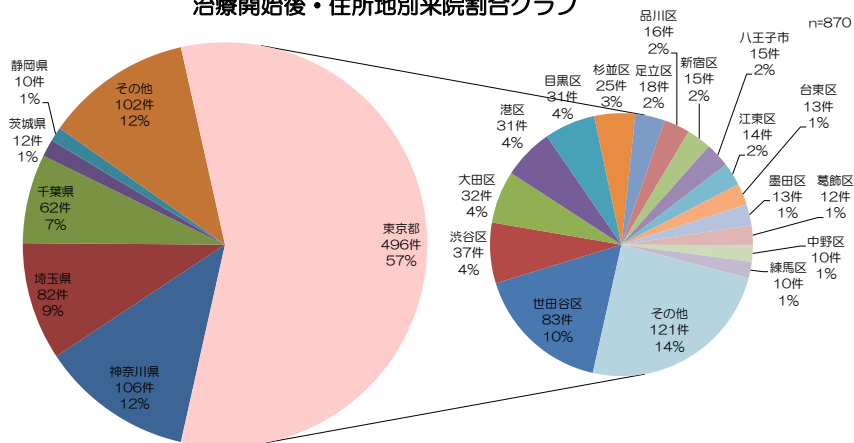
治療開始前・住所地別来院割合グラフ

n=1,440



治療開始後・住所地別来院割合グラフ

n=870



治療開始前の住所地別来院割合は、東京都が7割を占めます。治療開始後では、治療開始前に比べ全国から当センターに来院される患者さんが増えます。治療開始後のその他の内訳は、大阪府9件、栃木県9件、岐阜県7件、長野県7件などとなっています。